

1. 授業の概要(ねらい)

この20年余りの日本では、英語を中心とする「外国語」の運用能力の必要性和重要性が、過度にすぎるくらい、指摘されてきている。確かに、外国語の知識があった方が、生涯教育という観点からも、自己の啓発と向上という観点からも望ましいことではある。しかし、語学の運用能力という技術面しか無いことは、見た目だけが立派な容器にしかすぎず、その容器に入れる中身が無いに等しい。その一方で、日本と海外諸国とが近代以前にどのような関係を樹立していたのか、ということも、近年では求められている。そのため、この講義では、特に今の日本人には縁遠く感じられるであろう、ヨーロッパと日本の歴史関係を、当時の史料が豊富に残っているイエズス会の活動を中心に組み立てて、その基本的諸相について取り上げる。

*なおコロナ対策の一環として、この講義では履修学生の人数を50人程度に制限させて頂きます。

2. 授業の到達目標

- ・近代以前の日本と、キリスト教を主体としてヨーロッパとの基本的な歴史関係の諸相を理解できるようになること。
- ・日本史の中の「世界史」、世界史の中の「日本史」という複眼的な思考の基礎を養えるようになること。

3. 成績評価の方法および基準

日本の大学の単位修得が容易過ぎるとの批判を受けて久しいが、この授業では、成績評価を厳格に実施する。前年度の本講義の単位「非認定」率は30%で、「楽単」とは言い難いかもかもしれない。

- ・複数回の講義内試験と最終試験を一応の基準とする。

・レポートを課した場合、レポートの期限までの提出が最終試験の受験資格となる(試験に出て答案を出しても評価はDもしくはR)。なおレポートの課題は、インターネットでの「コピペ」を防ぐために、高橋が配布した文献の内容に関する解答を中心としたものとなる。またレポート課題の論文は日本語だけではなく英語の論文も考えている。レポートは指定した講義日の開始時に回収する。従って、友達に依頼された分の回収は受け付けない。

- ・出席は単位認定を担保するものではない。皆勤でも試験等の成績が悪ければ単位の認定は難しい。

- ・講義時の態度も、単位認定および成績評価に反映される。

*なお正当な理由で受験できなかった人は、一週間以内に教務課に届け出ること(証明書等の提示が必要)。

4. 教科書・参考文献

教科書

- ・特定の教科書は無い。講義で高橋の口頭説明をしっかりと記したノートが、各自の教科書となる。

参考文献

多岐にわたるので、入手しやすく、読んで分かり易い文献を、適宜、紹介する。

5. 準備学修の内容

・高度に専門的な著作物を読む必要はないが、日本とヨーロッパの歴史関係について、自分なりに調べ、講義を受けた後は、自分の思い描いていたイメージとの共通点や相違点を確認しておくこと。またキリスト教の歴史についての基礎的な事実関係を、各種新書類等で確認しておくこと。

・少なくとも、この授業では、私語を慎み、分からない部分が多くても、将来の自分への自己投資と思って我慢強く講義に望むことを、自分に言い聞かせること。

6. その他履修上の注意事項

*なお、このシラバスの記載内容とは、多少異なる形やテーマで、実際の講義が進む可能性もあることを、了解されたい。

①「おしゃべり」「電話」は厳禁とする。した場合この講義の履修を事実上「放棄」したものとみなし、即座に教室から退室してもらう。

②受講態度＝遅刻、私語、内職、講義の途中退室、やる気のない態度や姿勢(イヤホンやヘッドホンを着用し、椅子にだらしないく腰掛けるなどその他)の悪い学生、真面目に事業を受けようとしている学生諸君の気力に水を差すような言動をする学生については、受講を認めない。

③受講学生である諸君一人一人の態度や姿勢が、帝京大学の「今と将来」の社会的「評価」を、延いては諸君自身の能力・人間性・社会性そのものを決定する、ということを肝に銘じてほしい。

④大学の授業は高校の授業の延長では無いので、その積もりのレベルと内容の講義をするので、心得ていて貰いたい。

7. 授業内容

【第1回】 ガイダンス+講義「地域史とは何か:点単位から面単位の歴史へ」。

*一回目の授業はLMSでのオンライン授業となります。

【第2回】 大航海時代とは何か。

【第3回】 ヨーロッパ進出前後の日本の国際環境。

【第4回】 Demarcación の設定。

【第5回】 布教保護権と日本

【第6回】 イエズス会の創設とその組織。

【第7回】 イエズス会の日本進出。

【第8回】 イエズス会の対日文化戦略:祖先崇拜と利子徴収。

【第9回】 イエズス会の対日文化戦略:仏教と神道。

【第10回】 イエズス会宣教師と日本人。

【第11回】 イエズス会と世俗社会:経済活動と軍事活動。

【第12回】 日本をめぐる修道会間の抗争。

【第13回】 統一政権の対応。

【第14回】 世界史から読み直す日本の歴史

【第15回】 まとめと「試験」

注意:試験は定期試験期間での実施もあり得る